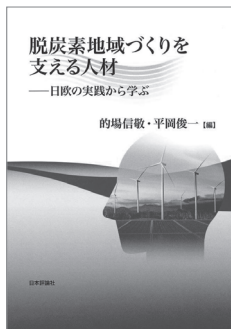


Book

脱炭素地域づくりを支える 人材育成の事例を探る

脱炭素社会を実現するには、その担い手となる人材の育成が欠かせない。特に、地域において脱炭素を実現するための専門人材の確保は難しい課題である。

本書は、日本と欧州において複数のセクターの立場から脱炭素地域づくりの現場で活躍する人材にインタビュー調査を行い、その共通点から人材育成に必要な要素を明らかにしている。また、学生会議や若者の政治参加といった教育やキャパシティ・ビルディングの取組、資格フレームワークなど多様な手段についても詳細に分析している。学術的な専門書ではあるが誰しにも関わりのある、脱炭素地域づくりやそのための人材育成について深く触れており、一般の関係者にもお勧めしたい一冊である。



脱炭素地域づくりを支える人材
日欧の実践から学ぶ

的場 信敬 / 平岡 俊一 編 / 日本評論社 (2025年2月)
定価 6,000円＋税

Brand

伝統と環境を守り未来へ継承する 佐賀県発のローカル・ブランド

有田焼やうれしの茶、鍋島緞通、名尾和紙、神埼そうめんなど、古くから自然とともに築いてきた伝統産業を持つ佐賀県。これらの伝統産業は、地域の自然の恵みによって成り立つ産業であり、地域と自然の関係が持続可能でなければ成り立たない。

「SAGA COLLECTIVE」は、これら佐賀県を代表する地域産業や伝統産業からなる協同組合で、「地域の環境を守り、未来の産業を守る」というビジョンのもと、伝統産業の持続を図りながら環境保全や地域社会への配慮を軸に取り組んでいる。具体的には、事業活動による二酸化炭素の排出量を測定し削減に取り組むと同時に、地元のカーボン・オフセットの取組に参加することで実質的な排出量をゼロにすることを目指している。



SAGA COLLECTIVE

<https://saga-collective.com/>

伝統産業の振興と地域脱炭素の実現という、地域課題の同時解決を目指すこの取組のこれから注目したい。

Movie

消えゆく「海藻の森」からの メッセージ

日常生活で海の中のことを考える機会はあるだろうか。水産業やレジャーなど直接海に関わることがないかぎり、おそらく多くの人にとっては稀なことだろう。このことは、海の中で起きている変化に、私たちがリアルタイムには気づきにくいことを意味している。

実はいま、気候変動による海水温の上昇などによって、コンブやワカメなどの「海藻の森」が全国的に急速なスピードで失われている。この問題は、海藻だけにとどまらず、海の生態系全体に影響を及ぼし、ひいては私たちの食卓や仕事といった、未来をも左右する。本映画は、監督の足跡をもとにしたドキュメンタリー形式になっている。北海道から九州まで、全国各地で変化に立ち向かう人々の臨場感あふれる声から、この先の未来について考えたい。



『ここにいる、生きている。
消えゆく海藻の森に導かれて』
2024年 / 103分 / G / 日本
監督：長谷川 友美 配給：one's
<https://umi-mori.com/>

Tool

気候変動をじぶんごとに 社会変化の輪を広げよう

脱炭素社会の実現において欠かせないのが、各々の主体が自ら行動することである。しかしながら私たちの日常生活にはどれほど注意が払われているだろうか。

「じぶんごとプラネット」は、住居・食・移動・ものとサービスの4つの分野について簡単な質問に答えることで、生活から発生するおおよその温室効果ガスの排出量が把握できるツールである。また、排出量を減らすことのできる行動が提案され、その中から実践できるアクションとその強度を選択することで、実際にどれほどの削減効果が得られるかシミュレーションできる。

気候変動を「じぶんごと」にしてひとりひとりが取り組む



じぶんごとプラネット

<https://www.jibungoto-planet.jp/>

ことが、行政の制度や企業の製品、サービスの変化につながり、社会全体の変化が加速するのではないかと。